

(15)

(月ぎめ購読料1,800円うち消費税133円)・一部売り(税込み)80円

<第3種郵便物認可>

献血や命の大切さ学ぶ

田辺工業高校2年生

田辺市あけぼのの田辺工業高校2年生184人は9日、骨髓移植を受けた九度山町河根中学校の松下公昭教諭(44)から献血や命の大切さを学んだ。

希望の高校で開いている県の高校生献血学習。松下教諭は2009年に急性骨髄性白血病を発症した。現在は和歌山大学大学院教育学研究科2回生でもある。

松下教諭は献血の必要性を伝え、献血に参加する10、20代の割合が少なくなっており、今後血液不足が予想されることを説明した。

自身の治療を振り返り「支えてくれた人たちがたくさんいたおかげで治療を進めることができた。その一つが輸血。

抗がん剤治療をすると良い細胞までなくなり、輸血をしないと生命の維持ができない。献血してくれた人に対して本当にありがたいという気持ちで血液が入ってくるのを見て

いた」という。

骨髓移植について触れ「このドナーさんのおかげで自分は助かるかもしれないと思ったら、涙が止まらなかった。これだけ助けてもらったのなら、何か自分にできることはないかなと考えるようになった」と振り返った。

どうすれば幸せに生きることができかを考え続けることが、命の大切さを考えるこ

とになるのではないかと定義して研究しているという。

「自分が幸せに生きる権利を持つているとするなら、目の前にいる人もその権利を持っている。相手を理解することにつながっていけば、いじめや暴力などの問題を解決できる手掛かりになるのではないかと話した。

講演後、2年生の前田泰佑君(16)は「自分たちもたくさんの人に役立



△

2年生に向けて講演する松下公昭さん(9日、田辺市あけぼの)

てることが分かった。これから献血に積極的に参加していきたい」と話した。